

## 大学病院における救急医療

Emergency Care in the University Hospital

第 558 回新潟医学会

日 時 平成12年 4 月15日 (土) 午後 2 時から

会 場 新潟大学医学部 有壬記念館

司 会 酒井邦夫教授 (放射線科)

演 者 広瀬保夫 (新潟市民病院救急救命センター), 小山 眞 (県医師会理事桑名病院長), 片桐幹雄 (新潟県福祉保健部), 遠藤 裕 (救急部), 本多忠幸 (救急部), 柴田恵三 (金沢大学救急部集中治療部), 朝倉均 (第三内科)

発言者 鷲津 勇 (新潟県福祉保健部), 下条文武 (第二内科), 伊藤正一 (県立新発田病院), 宮村治男 (長岡赤十字病院心臓血管外科)

司会 大学病院における救急医療というテーマのシンポジウムを始めるにあたって、現在のところ新潟大学病院における救急医療の位置付けがどのようになっているかについて、司会者の立場から概略をお話ししておきたいと思います。

まず昨年10月に作成した本院の中期将来計画では、診療面の4つの重点項目の一つに「救急医療の充実」を掲げている。そして救急医療の目標として、「第一～三次救急患者の受け入れを可能とし、夜間・休日を問わない24時間の高度救急医療体制を確立し、地域のニーズに応えらるとともに、卒後臨床研修の充実を図る」としている。一方、病院運営委員会の下に設置された「本院のあるべき救急医療体制に関するワーキンググループ」は、昨年12月に、次のような内容の答申を行っている。その内容は①第一～三次救急患者に対応した救急医療体制の確立、②病院再開発第一期工事完了後に、救急外来の全日24時間体制を確立すること、③観察用病床5床の確保を最優先すること、④第2期工事完了後救急専用 ICU 5

床の確保、⑤第2期 (病棟東館) の屋上にヘリポートを設備すること、の5点に要約されます。

以上のような事をお含みの上で、シンポジストの方々からご発表いただいた後で、最後にディスカッションとして新潟県における救急医療体制の問題点について、例えば、救急医療情報ネットワークは有効に機能しているのだろうか、原子力発電の安全神話が昨年の JCO の事故で崩壊した現在、そういった原発事故における救急医療体制はほんとに大丈夫なのか、そして救急医療における大学病院の役割、地域のニーズと期待はどこにあるのか、などの点についてディスカッションしたいと考えております。

それでは早速シンポジストの方々のご発表をお願いしたいと思います。

新潟市民病院救急救命センターの広瀬先生に、救急救命センターにおける救急医療の現状というテーマでお話いただきます。

## 1) 救急救命センターにおける救急医療の現状

新潟市民病院救急救命センター 広瀬保夫

司会 それでは引きつづいて大学病院に期待される救急医療、地域医療との関連から、というテーマで新潟県  
医師会理事で桑名病院長の小山先生お願いします。

2) 大学病院に期待される救急医療  
—地域医療との関連から—

新潟県医師会理事・救急医療部長

桑名病院 院長・外科医 小山 真

On a Work Expected to the Department of Emergency and  
Critical Care Medicine and the Emergency Unit of the  
Niigata University Hospital

Shin KOYAMA

*Chief of the Emergency Medicine Section,  
the Niigata Medical Association  
Director and Surgeon, Kuwana Hospital*

The author would like to celebrate the start of the Department of emergency and critical care medicine and the Emergency unit of the Niigata University Hospital.

The author also wishes to express his opinion, which is mentioned below, on preparing the Department and the Emergency unit for their future activity.

1. The staff members of the Department are expected to instruct undergraduate students in the knowledge and technique of Triage and the first aid in emergency exactly.

2. The Emergency unit should be prepared to receive critical patients, including patients who have major burn, severe intoxication, or multiple trauma respectively.

3. The Emergency unit should have an ambulance and Doctor's car to give an emergency medical care quickly.

---

Key words: emergency and critical care medicine, Triage, first aid  
救急救命センター, 3次救急, 特殊救急, トリアージ, 蘇生術

---

Reprint requests to: Shin KOYAMA, MD.  
Kuwana Hospital,  
Furukawa Cho 6-4,  
Niigata City, 950-0056, Japan

別刷請求先: 〒950-0056 新潟市古川町6-4  
桑名病院 小山 真

新潟大学医学部（附属病院を含む）は教育、研究、臨床の機能をもつ県内唯一の医療機関であり、優れた医師の供給と医療の質の維持・向上に大きな貢献をして来た。しかし、これまで救急医学・医療に関しては教育、臨床共にあまり熱心ではなかったと云わざるを得ない。

この度、年程前に病院に設置された救急医療部に続いて昨春医学部に救急医学教室が開設されたことは、誠に喜ばしい次第である。これを契機に救急医学教育の充実と県内で最高、最大の救急医療部の設置を期待したいと思う。

そこで県医師会救急医療部長の立場で救急医学教育と救急医療部のあり方について希望を述べてみたい（表1）。

### I. 救急医学教室に望むこと

これまでの新大医学部での教育は専門分野では優れた医師を育てて来たものの「医療の原点」と云われ総ての医学的知識の集結が必要となる救急医学の基礎的教育に若干欠けるところがあったようである。そのために県医師会の救急医療部では県内の臨床医に対する蘇生術やトリアージの教育に苦勞している。そこで私は救急医学教室の開設を機に少なくとも救急医療の最も基本である蘇生術やトリアージの知識と技術を十分に叩き込んだ医師を臨床の場に供給して頂きたいと願うものである。表2に救急医学教育として求められている項目（厚生省）を挙げておく。

### II. 救急医療部に望むこと

大学病院である。総ての診療科に専門的知識をもつ優れた医師がそろっているはずでありその立場を生かして最高の救急医療を実現して頂きたい。

(1) 最高の機能と最大の規模をもつ（当然24時間対応の）救急救命センターとして整備されるべきである。更に通常の3次救急患者のみならず広範囲熱症、重度の多発外傷、重症中毒症等の特殊救急の患者も多数収容出来るだけの設備と人員を整えることが望ましい（大災害時の特殊救急患者の収容能力は県内全体でも極めて貧弱である）。

(2) 教育上の必要より初期、2次救急の患者も対象とすべく整備する必要があるのではないかと思う（たとえ少数の患者でよいとしても）。

(3) 特技を持つべきである。以上の如き一般的な救急医療を充分に行うことに加えて新大附属病院の救急医療部ではこんな点で他より優れた技術をもっていると評

表1 新潟大学病院の救急部に望むもの

I, 新大救急医学教室に望むもの
卒前教育を十二分に
特にトリアージと、蘇生術の確実な知識と実技を
II, 新大救急医療部に望むもの
1. 救命救急センターであれ
2. 特殊な3次救急患者を受入れよ
重症火傷, 多発外傷, 中毒
3. 教育上1, 2次救急患者の受入れも必要ではないか
4. 放射能障害者の受入れを
III, 更なる機能の充実を
1. 搬送体制の確立を
○ 救急車とドクターズカーの整備を
○ ヘリポートの整備を
2. 訓練機器の整備を（訓練用のダミーなど）
IV, 国（文部省）と県（厚生省）の縦割り行政の欠点の解消に力を尽くすべき

表2 救急医学教育

- |                        |
|------------------------|
| (1) 救急医療の生涯教育          |
| (2) 医療従事者に対する教育・研修のあり方 |
| ① 医師の卒前卒後教育            |
| ② 看護婦及び救急救命士に対する教育     |
| (3) 国民に対する普及啓発         |

価されるような特殊技術を作りあげることが望ましい。大学院大学としても、また独立行政法人となった場合にも高い評価を得ることが必須となるであろうし、救急医療のように素人うけのする医療分野での活躍は大学全体のためにも有益なのではなからうか。

(4) 放射能障害患者の受入れを可能にする必要がある。たび重なる原子力発電関係施設での事故により国はようやくこの方面での防災体制の整備を検討し始めた。本年中に国の防災計画にとり入れられ、間もなく県の防災計画にも組込まれることになる。柏崎原発をもつ当県としては切実な問題であり、この点より新大医学部と救急医療部の積極的な整備と県民や県内医療関係者への教育に力をそそぐことを考えて頂きたいと願うものである。

### III. 更なる機能の充実を

10年程前に欧米の病院を見学して歩いた時の経験と最近の救急医療事情の検討より新大附属病院の救急医療部

は独自で救急車とドクターズカーを設置すべきであると思う(救急救命センターになれば持たざるを得ない)。臨床的にも教育面からも大きな効果が期待されるし、特に来院前応急処置の点で著しい効果が得られるはずである。

この他、ヘリポートの設置や蘇生術の訓練に必須の極めて高度の機能をもつダミーの導入なども期待したい。

以上、私の個人的な希望も併せて意見を述べたが卒後臨床教育制度や独立行政法人制度の発足を目前に控えた今日最も素人うけのする救急医療につき県内医療界のリーダーである新大医学部として最高を目指して整備を進めることが大切な時期なのではあるまいか。そしてそれを実現するためには新大医学部の教授会の前向きな意志決定と医学部全体の強い決意が絶対的な条件となろう。多くの国立、私立大学の救急医療部の整備の際に見られたように救急医療を担当するスタッフの強い意志とエネル

ギーの投入がなければ国や県などの組織を動かすことが出来ないことは明らかで、私は新大救急医学教室のスタッフの情熱的な御努力を心より期待するものである。頑張ってください。応援します。

#### 謝 辞

発表の機会を与えて下さった前新大病院長：酒井邦夫教授、日本救急医学会・用語集1(和英)を御恵送下さった新大医学部救急医学教室：遠藤 裕教授に心から感謝申し上げます。

司会 非常に適切かつ具体的な御助言をいただきました。引き続き新潟県救急医療計画における大学病院の位置付けというテーマで新潟県福祉保健部の片桐課長にお話をいただきます。よろしくお願いします。

### 3) 新潟県の救急医療体制等と大学病院について

新潟県福祉保健部健康対策課長 片 桐 幹 雄

#### Emergency Medical Care Measures in Niigata Prefecture and Hopes for Niigata University Hospital

Director: Mikio KATAGIRI

*Health Promotion Division,  
Department of Health and Social Welfare,  
Niigata Prefectural Government*

Emergency Medical Care Systems (EMCS) in Niigata Prefecture are planned and arranged from primary to tertiary in order to supply medical care on patient's conditions.

Primary EMCS: City, town or village governments establish emergency medical clinics for holiday and night-time, in order to provide emergency medical cares for patients on holiday and night-time, "Doctors on duty under rotation systems" which are operated by Local Medical Associations support medical treatment as well.

Secondary EMCS are rotation systems of hospital groups in order to treat patients with heavy disease or injury.

In order to ensure that the EMCS will function in case of disaster, we operate the Wide-area Disaster and Emergency Medical Information Systems.